

## 式 辞

例年になく早く桜のつぼみがほころび始めました。一方、昨年来の新型コロナウイルス感染下において、ここ東京においては緊急事態宣言が出されている中での、95期生の歴史的な卒業式となりました。

95期生の170人の皆さん。卒業おめでとうございます。また保護者の皆さまにおかれましても、心より祝意を申し上げます。

私は昨年、43年ぶりに母校に戻ってきました。そうしたことから、皆さんとの思い出は2年間だけですが、それでも様々な場面で皆さんがこの武蔵を盛り上げてくれた姿をよく覚えています。

ただ、残念なのは、これは武蔵に限ったことではないのですが、本来なら集大成となる高校三年次において、部活動においても学校行事においても、あるいはグローバル関係の取り組みにおいても、完全燃焼できなかったことです。

私は常々「ピンチはチャンス」といいましたが、それはなかなか難しいことはよくわかっています。ただ、そうした中においても、皆さんがそれぞれなりに、何をなすべきかを考え、与えられた生活の中で楽しむすべを身に付けていた様子は大変頼もしく思えました。そして、コロナ禍における受験勉強も大変だったと思います。よく頑張ったと心から称えたいと思います。

そんな皆さんが、本日をもって、この武蔵で学んだ6年間を終え、それぞれの道に旅立つことに大きなさみしさを感じますが、渾身の思いを込めて、餞の言葉を送りたいと思います。

それは、皆さんが作成した95期生の卒業アルバムに、私が書いた言葉です。  
「人生で一番大事なことは歩き続けることだ」

今や人の平均寿命はどんどん延び、30年後、40年後には「人生100年時代」が到来すると思います。したがって、今皆さんはまだ18歳。これから80年近くの長い人生が始まります。

その大海原に飛び出す諸君は、「何者にもなれる可能性をもっているけれど、まだ何者にもなっていない存在」です。それでも武蔵での6年間の中で、何を自分が知りたいの

か、何が好きなのか、そして何をやっているときは自分が楽しいのかなどを考え、ある者ははっきりと、そしてある者はおぼろげながら自己の進路を考えたことと思います。

孔子の言葉に「之を知る者は之を好む者に如かず、之を好む者は之を楽しむ者に如かず」という言葉があります。人はなぜ学ぶのか。まずは知りたいから学ぶ。さらに好きだから学ぶ。さらに楽しいから学ぶ。この「知りたい、好きだ、楽しい」の文字をつないだ「知好楽」は、自分が何に向いているかという自己の適性を見出す原理であるとともに、それを生かした職業を選択することにより、職業を通して社会に貢献し、世界のどこかを支える人間になっていく指針を示す言葉だと私は思います。

卒業生諸君の中には、今春見事大学に進学した者も、捲土重来再起を目指す者もいると思います。一年や二年の足踏みは長い人生においては全く問題ない。レジリエンスという言葉がありますが、むしろ挫折を通して、人の痛みを知り、それを乗り越える経験することは、人として成長するうえで良い機会とさえ私は思います。いずれにしても、なるべく大学生活を通して、自己を生かす職業を見つけていってほしいと思います。

さて、そうして首尾よく最初の職業生活に入っても、皆さんにはそのあと何十年に及ぶ人生が待っています。人生には、間違いなく、色々なことがあります。良い時もあれば悪い時もある。うまくいっている時もあればいけない時も、そして楽しい時もあれば苦しい時もある。まして自分ではコントロールできないような理不尽なことも起きてきます。そんな人生において、もっとも大切なことは何か。それは歩き続けるということだという話です。

この言葉は、2010年から2015年まで5年間ウルグアイの大統領を務めたムヒカ大統領が語った言葉から学んだものです。

ムヒカ大統領のことを皆さんは聞いたことがあるでしょうか。「世界で一番貧しい大統領」ということで知られています。彼は大統領でありながら、用意された立派な大統領の家ではなく、農家である質素な自分の家で自給自足のつつましい暮らしを営みました。

そんな彼を世界中で一躍有名にしたのは、2012年にブラジルのリオデジャネイロで開催された国連持続可能な開発会議いわゆるSDGsの会議の席上で行ったスピーチでした。

彼は、集まった世界各国の代表を前に、「私たちは本当に仲間なのですか。インド人がドイツ人と同じくらい車を持つようになったら地球はどうなりますか」と、先進国が生み出した大量消費社会を厳しく批判するメッセージを、強く静かに語りました。そんな彼の

言葉は、この会議に参加していた多くの人々の胸を打ちました。

その彼が、2016年に日本にやってきました。その折、皆さんのような若い世代、東京外国語大学の学生を対象に講演会を行いました。

そこで、フロアから質問が出ました。「人生で一番大切なことは何か」。しばらく考えて、ムヒカが出した答えが、「歩くこと」でした。

この答えの意味を知るには、彼の壮絶な人生に思いを致さなければなりません。彼は大統領になろうと思ってなった人ではありません。権力志向などない。むしろ、そこにいたるまでには、ゲリラ活動を行ない、当時の政府にいらまれて12年にわたる獄中生活を送ったりしています。しかし、その後、民主化が進むなかで、運命のあやで大統領に推されました。また、大統領になってもうまくいったかという、決してそうではありませんでした。さらに人々に尽くす人生を送る一方で、家庭では獄中生活もあり、子宝には恵まれなかったといえます。

この東京外国語大学でのスピーチの様子は、「ムヒカ」という映画の中に記録されています。彼の答える瞬間、真剣に聴いている大学生たちのまなざし、一緒にこの話を聴いていた、共に人生を歩まれてきた奥さんの涙が私は印象的でした。

おそらく人生で色々なことがあったんだと思います。それでも前を見て歩き続けた。

私たちは、とにかく、人生で大切なことは、いい大学に入ったとか、いい会社に入ったとか、有名になったとか、お金を稼いだとか、社会的名声を得たとか、そういうことを「成功」だと思ってしまいます。でも、果たしてそうでしょうか。

もし、そうだとしたら、人生は山あり谷ありで、いい会社じゃなかったら、お金が無くなったら、有名でなくなったら、人生は全く意味のないものになってしまいます。

人生は決して甘くない。3・11もそうですし、新型コロナウイルスもそうですし、思うようにいかないことや理不尽なことがたくさん出てきます。そうしたときにも、歩き続けることができるか。時には足踏みをするのもいいでしょう。後ずさりをするのもいいでしょう。それでも前を向いて歩き続けることができることが、人生で最も大切なことだと私は思います。

やがて人はこの命を失うときがくるでしょう。そのとき、神様に「もし生まれ変わると

したら、同じ人生をやりたいか？」と聞かれたら、「山あり谷あり大変なこともあったけれど、もう一度生まれ変わっても、やっぱりこの人生を生きたい」と言えるとしたら、私はこんなに素晴らしいことはないと思いますし、そうありたいと思います。きっとそのとき、己の人生の中で、常に前を見続けて「成長」し続けてきた自分自身に出会うことができるのではないかと思います。

人生で一番大切なことは成功することではない、歩き続けることだ。そして成長し続けることだ。

この言葉を95期の諸君に送ります。どんな困難も乗り越えていく、そして人の痛みを感じ、人に対して優しくあれ。諸君は将来、社会の様々な場所に分かれていくと思いますが、それぞれの分野で、真に信頼され尊敬されるリーダーであってほしい。世界のどこかを支える人間であってほしい。武蔵の教育はそれを可能にしてきたと思っています。

結びに、保護者の皆様に心より御礼を申し上げます。この6年間、本校の教育にご理解ご協力をいただき誠に有難うございました。至らない面も多々あったと思いますが、教職員一同、一生懸命取り組ませていただきました。この武蔵の環境で、多感な十代を過ごし、立派に成長した若者として、皆さま方の大切なご子息を本日お返しできたことを嬉しく思います。

本日をもって、いったん武蔵との縁は切れてしまいますが、今後とも末永くこの武蔵を暖かく見守っていただければと思います。本当にありがとうございました。

それでは、本日この武蔵を旅発つ95期生の前途洋々たる未来を心から祈り、私の式辞といたします。